



こんにちは議会です

No.87

April 25 2006

がんばら

生まれかわる
苅田駅



3月定例会

- 手づくりの町づくり予算を徹底検証 P2~P5
- 各常任委員会報告 P6~P7
- ズバリ町政を問う(12人が質問) P8~P19
- カメラ見て歩き P22~P23



発行/苅田町議会 編集/議会広報特別委員会

〒800-0392 福岡県京都郡苅田町富久町1-19-1
TEL (093) 434-1981 FAX (093) 436-3014

あなたと議会をむすぶ GIKAI.MAGAZINE

3月
定例会

の領域」を広げ 町づくりをめざす

平成18年度 一般会計

138億3,702万円

(前年度比 3.6%減)

予算額の1万円未満は切り捨てています

町民一人当たりに使われるお金

399,210円

(平成18年3月末人口 34,661人)

荻田町手づくりのまちづくり事業補助金 **750万円**

荻田町第3次総合計画に掲げられたまちづくりの基本方針に基づき、町民自らが企画実施する手づくりのまちづくり事業について、概ね次のような事業に対して補助する。

- (1) 子育て支援に関すること。 (2) 青少年の健全育成に関すること。
- (3) 生きがいづくりに関すること。 (4) 環境の保全に関すること。
- (5) 保健福祉の推進に関すること。 (6) その他

当初予算の比較

(単位:千円)

会計区分	歳入歳出当初予算		比較増減
	18年度	17年度	
一般会計	13,837,024	14,351,747	△ 514,723
国民健康保険	2,994,576	2,857,677	136,899
老人保健	3,417,017	3,397,871	19,146
介護保険	1,733,927	1,799,616	△ 65,689
土地区画整理事業	51,602	54,739	△ 3,137
奨学資金貸付金	24,474	26,187	△ 1,713
学校給食事業	279,133	276,157	2,976
住宅新築資金等	25,352	28,640	△ 3,288
霊園事業	9,940	12,619	△ 2,679
荻田臨空産業団地開発	368,670	550,199	△ 181,529
農業集落排水事業	67,991	340,810	△ 272,819

*平成18年度における一般会計及び特別会計について比較した。
(下水道事業会計及び水道事業会計を除く。)

2月27日から3月20日まで会期22日間

予算・条例・補正予算・専決処分
工事請負契約など63件可決

住民と行政の「協働手づくりの

空港関連事業費

平成18年3月16日に開港した新北九州空港について、今後はさらに利用促進に力を注ぎ便利で、利用しやすいものにしていくため、また未整備の個所の整備を行なうために必要な費用を予算化するものです。

空港開港後の利用実態の把握・分析に基づき、将来アクセスのあり方の検討やその時々課題について調査・研究を行なう等。

新北九州空港利用促進協議会負担金
580万円

空港の利用促進により、北九州地域の経済、観光及び文化の発展に寄与する。

新北九州空港利用促進連絡会負担金
4,004万円

新空港への動機付けを高めるため、利用者に対するポイントカード制度を設ける、新たな需要の喚起や近隣空港からの利用転換、リピーターの育成を図る。

新北九州空港ポイントカード運営協議会負担金
1,000万円

新北九州空港関連用地電力工事費負担金
1,300万円

新北九州空港整備事業負担金
670万円

開港した新北九州空港



18年度一般会計当初予算の性質別比較

(単位:千円)

性質別区分	18年度当初	17年度当初	比較増減額	説明
人件費	2,430,022	2,400,844	29,178	職員や特別職等人に伴う一切の経費
扶助費	1,310,156	1,399,712	△ 89,556	社会保障制度としての様々なサービスのための経費
公債費	1,095,521	1,056,574	38,947	借入れた資金を返済するための経費
物件費	2,441,013	2,261,153	179,860	事務に要する経費や施設の維持管理に要する経費
維持補修費	55,368	60,094	△ 4,726	道路や施設の維持に要する経費
補助費等	961,553	642,701	318,852	他団体への補助金や負担金等の経費
普通建設事業費	3,592,591	4,435,410	△ 842,819	施設の整備等行政水準の向上のための経費
災害復旧費	9,447	10,208	△ 761	災害復旧のための経費
繰出金	1,804,890	1,947,314	△ 142,424	会計間相互の予算の融通のため支出する経費
その他	136,463	137,737	△ 1,274	積立金、出資金、貸付金、予備費
予算合計	13,837,024	14,351,747	△ 514,723	

成人の各種健康診断事業

病気の早期発見・早期治療のため、各種健康診断は最も有効と思います。町民一人でも多くの方の受診により、健康で長寿の町づくりのため受診しましょう。検診日や検診箇所については、広報かんだ等で皆様方にお知らせし、募集いたします。

町民健康診断委託料…………… **7,481万円**
(17年度受診率57.3%)

婦人健康診断委託料…………… **349万円**
(17年度受診率45.4%)

成人歯科保険事業委託金…………… **210万円**
(17年度受診率12.2%)

成人病検診委託料…………… **86万円**
(17年度受診者数18名)

骨密度測定委託料…………… **26万円**
(17年度受診率8.5%)

前立腺がん検診委託料…………… **321万円**
(17年度受診率27.4%)

がん検診委託料…………… **405万円**
平成17年度受診率胃5.4%、肺(X線5.8%、喀痰0.5%)、大腸4.9%

女性がん検診(マンモグラフィ含) …… **488万円**
(17年度受診率 乳がん・30~39歳 7.3%)
(17年度受診率 乳がん・40歳~ 7.4%)
(17年度受診率 子宮ガン 5.8%)



環境整備事業

近年、過剰包装や生活形態の変化により、ごみの減量化は困難を呈しております。

苅田町では、空き缶・空き瓶のリサイクルや可燃ゴミのRDF化など資源としてリサイクルしております。平成18年度では、これらに加えて、限られた資源を有効にリサイクルするため旧ごみ焼却場跡地にリサイクルセンターの設置が計画されています。

リサイクルセンター関係 **6億8,065万円**

ごみの不法投棄は後を絶ちませんこの処理に100万円の予算を計上しております。



苅田町空港内 観光案内・情報コーナー

商業振興・観光事業

空港を利用する観光客や地元の皆さんに苅田町の情報や特産品の紹介等発信する基地整備事業として。

井場川埋立工事…………… **9,000万円**

苅田町のこれからの産業と観光を大きくアピールするための、空港内に設置した苅田町のPRのための電照広告、観光ブースに係る予算として。及び観光ビジョンの基本構想策定のための予算として。

空港電照広告制作及び管理委託料 **240万円**

空港観光ブース管理委託料…………… **66万円**

苅田町観光を掘り起こすため

観光ビジョン基本構想策定委託料 **500万円**

港湾整備事業

陸・海・空の交通網の整備として、航路浚渫のための負担金を予算化しています。

港湾整備事業負担金…………… **1億2,745万円**

生活安全事業

白石地区の高潮対策として、平成14年度から年次計画で福岡県が施行する高潮対策工事に対する町の負担金を予算化しています。

白石海岸高潮対策負担金……………**432万円**

増加する交通量や大型車の通行で、橋の安全性を調査するため橋の耐震調査を行ないます。

耐震調査委託料(九耀橋、鋤崎橋)**1,414万円**



教育・子どもの安全確保

青少年の社会教育また体験学習の施設として、等覚寺地区に「青少年体験研修センター」建設のため、設計委託料と用地購入費を予算化しました。

青少年体験研修センター設計委託料**950万円**

用地購入費……………**700万円**

青色パトカーによる自主防犯のために必要な経費を予算化しました。

コーディネーター報酬……………**152万円**

青色パトカーリース料……………**59万円**

予算特別委員会報告

●付託案件

平成18年度荊田町
一般会計予算ほか 13件

慎重審議の結果、全議案を可決した。

一般会計予算

Q 平成18年度予算の編成方針は。

A 三位一体改革の中、行政改革を日常的に進め、町長の基本施策である住民と行政の「協働」の領域を広げ、手づくりの町づくりを実現していくための予算編成方針である。

Q 役場庁舎増設の目的は。

A 会議室の確保で各課の配置等を考えて建設したい。

Q 土地開発公社の見直しは。

A 平成18年度中にも存続・廃止論を含め土地開発行政の在り方を検討していく。

Q シルバー人材センターの補助金のアップの理由は。

A 法人化に向け財務体質の強化であるが、法人化により国・県の補助金も増えるため決算では、町の負担は減になる予定である。

予算特別委員長

坂本 東二郎



Q 犬猫避妊去勢手術補助金について、行政の守備範囲を越えているのではないか。

A 運用していく中で、愛犬・愛猫家としての管理責任の向上とマナーアップ等をはかっていく。

Q 高潮対策事業について。

A 平成18年度は、二崎浄水場付近までの220mを予定している。

Q 白川方面への消防車の平均到着時間は。

A 平均10分程度である。

〔要望〕

- ・防犯灯の設置については、安心安全の町づくりから電気代の町負担や、ソーラー化の検討をお願いする。
- ・町民健康診断制度の更なる拡充について、啓発活動等あらゆる方法で受診率を高めるよう要望する。
- ・リサイクルセンター建設

にあたっては、住民がより身近な施設となるよう要望する。

・地産地消につながるよう生産者や「担い手」のやる気を喚起するメリハリのある予算執行を求める。

・町道浮殿文久線・白石干拓線の早期整備及び臨海工業線交差点の安全対策について要望する。

歳入について

〔要望〕

・不要不急な町有財産の早期処分を、また更なる行政改革を要望する。

国民健康保険特別会計

〔要望〕

・滞納世帯の分割納入等について慎重に検討してもらいたい。

介護保険特別会計

Q 介護保険料の値上に伴い一般会計からの繰入れは、できないのか。

A 繰入れはできない。

学校給食事業特別会計

〔要望〕

・地産地消で白川米等の直接購入の検討を要望する。

霊園事業特別会計

〔要望〕

・霊園の新規の開発も町づくりの視点から検討を要望する。

総務常任委員会報告

総務常任委員長

白石 壽幸



●付託案件

- 補正予算 3件
- 条例の改正・制定 15件
- 議決内容の一部変更 1件
- 事務組合規約改正 1件
- 公平委員会の設置 1件

慎重審議の結果、全議案を可決した。

男女共同参画審議会設置条例の一部改正

- Q** 男女共同参画室を設けることで、従来との違いは。
- A** 事務的な内容はほとんど変わらないが、男女共同参画についての取り組みを重点的に進めたい。

特別会計条例の一部を改正する条例

- Q** 下水道事業特別会計を企業会計に移行することのメリットは。
- A** 下水道事業の経理、運営状況がわかり易くなる。

情報公開条例の一部改正

- Q** 情報公開・個人情報保護審査会委員の人は。
- A** 弁護士、大学の先生などを考えている。現在の情報公開審査会委員をそのまま選任するかは、今のところ決めていない。

個人情報保護条例の制定

- Q** 役所内で職員が取り扱う個人情報に対する対策を講じているか。
- A** 職員は、法律により秘密の保持が義務付けられており、使用状況等は電算室で管理している。
- Q** パソコンやフロッピーデスクの管理は。
- A** 持ち出しには、総務部長決裁の許可制としているが、早い時期に検討し、情報保護について最善を尽くしたい。

人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の制定

- Q** 地方公務員法の改正により人事行政の運営状況を公表することとされたが現行は。
- A** 給与・職員数等の一部について公表していたが、今後は退職者数・任用者

数・分限・懲戒等処分者や勤務時間等も公表することになる。ただし、個人名は公表しない。

一般会計補正予算(第11号)

- Q** 消防費では、119番直接受信装置で減額されているが、消防装備は後退していないか。
- A** 消防施設装備の充実を進められている。

住宅新築資金等特別会計補正予算(第1号)

- Q** 貸付金の徴収は進んでいるか。
- A** 年々償還が完了し、債務者は減少しているが、滞納者の減少に努力している。



厚生文教常任委員会報告

厚生文教常任委員長

長井 孝篤



●付託案件

- 補正予算 9件
- 条例の改正・制定 5件

慎重審議の結果、全議案を可決した。

荏田町総合保健福祉センターの設置及び管理運営に関する条例の一部改正

- Q** 社会福祉協議会との業務分担は。
- A** 地域包括支援センターは、主として指導・相談的業務を実施する。
- Q** 組織の要員は。
- A** 保健士2名、社会福祉士2名の常勤嘱託職員、その他保健士で5名程度の計画である。

荏田町介護保険条例の一部を改正する条例の制定

- Q** 介護保険料が、上がることは問題である。
- A** 今後の保険料の上昇を抑えるため、介護予防事業に力を入れて行なう。
- Q** 奨学資金貸付金特別会計への繰出金の減少で、借り入れ希望者が減ったの



地域包括支援センター
(パンジープラザ内)

A 健康づくり大学の開講、町民検診の普及、啓発活動の推進の三本立てで、特に高血圧、糖尿病等生活習慣病の予防に努力し、医療費の上昇の抑制に努める。

産業建設常任委員会報告

産業建設常任委員長

井上 修

●付託案件

- 補正予算 7件
- 条例の改正・制定 4件
- 損害賠償の額の決定 1件
- 工事請負契約変更 2件
- 工事協定の変更 1件
- 町道路線の認定 1件
- 事務の委託に関する協議 1件

慎重審議の結果、全議案を可決した。

Q 自由通路での喫煙又は飲酒等により、たまり場にならないか。

A 防犯カメラを設置して対応する。

Q 専決処分（損害賠償の額の決定）

要望
毎年損害賠償事件が数件起きているが、パトロールや通勤等において道路の現状把握を職員にも指導すべきだ。

Q 一般会計補正予算（第11号）

A 橋の耐震調査の結果はどうか。
15m以上の橋3箇所のけが短いとの指摘がなされ、



改良を行なっている。ほかの橋についても再調査の必要があり、その結果を踏まえ危険性があるところは改良していく。

要望

白石海岸高潮対策を県に、平成19年度までに完了するよう要望があった。

Q 土地区画整理事業特別会計補正予算（第1号）

A いつまで特別会計で対応しなければならぬのか。

要望
償還義務が、平成26年まであることからこの終了まで行なう。

Q 農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）

A 当初、景観等も考え公園化などをはかるとの計画がされていたが今後どのように対応をするのか。

要望
国の補助金等の規制で見送られたが、植樹等の景

観対策を考えていきたい。
水道事業会計補正予算（第3号）

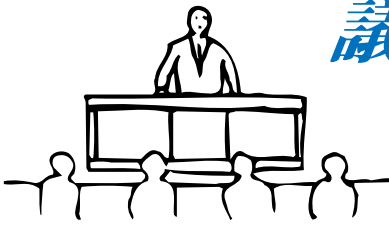
Q 収益的収支において、京築水道企業団からの受水費が大きな負担となっており、一般会計からの補てん等で対応するべきではないか。今後老朽浄水場の建替えにも影響すると思うが早急な対応が必要ではないか。

A 補てんできるところは見直しを検討したい。老朽浄水場の改修は、平成18年度実施計画を行ない、平成19年度改修工事を行ないたい。



新苧田駅舎東西自由通路

議会を傍聴しませんか



次の定例会は6月です。
一般質問は6月13日・14日・15日・16日（4日間）の予定。
開催時間/10時～17時（予定）受付は庁舎6階まで。

3月議会は118人の傍聴者がありました

問い合わせは議会事務局まで TEL093-434-1981

木原 洋征 議員

- 1. 国保税について
- 2. 教育環境の整備について
- 3. 児童館の早期設置について
- 4. 吉廣町長への公約について「誰もが安心して心豊かに暮らしていける町へ」
- 5. 平和で安全な新北九州空港を

林 繁実 議員

- 1. 小さな輪から大きな輪へ
〔独自性の確立と荊田方式(きめ細かい行政)〕

作本 文男 議員

- 1. 政治姿勢と公約

梶原 弘子 議員

- 1. 安心、安全で住みやすい町づくりについて
- 2. 同和事業

武内幸次郎 議員

- 1. 空港を生かした町づくりへの基盤整備について
- 2. 未処理化学弾について
- 3. 農業振興について

梶谷 忠明 議員

- 1. 人口問題
 - 2. 住宅問題
- (梶谷議員の一般質問については、原稿提出を辞退する申し出があり、質疑応答の内容は割愛し質疑項目のみ掲載しました。)

川上公美子 議員

- 1. 介護が必要な人が受けられる介護保険制度を
- 2. 教育行政について
- 3. 安心して住める町づくりを

坂本東二郎 議員

- 1. 新空港開港に伴う諸問題について
- 2. 手づくりの町づくりについて

常廣 直行 議員

- 1. 自立に向けての町づくり
- 2. 交通体系の確立
- 3. 公共施設の維持管理

友田 敬而 議員

- 1. 所信表明を受けて
- 2. 観光について
- 3. 安心安全の町づくり
- 4. 中心市街地活性化について

小山 信美 議員

- 1. 安心・安全のまちづくりのために
- 2. 防災無線整備の必要性
- 3. 新たな介護保険制度について
- 4. AED(自動体外式除細動器)の設置、救命講習の普及促進を

白石 壽幸 議員

- 1. 安全に安心して暮らせる町づくりについて
- 2. 環境問題について
- 3. 教育問題について





木原 洋征 議員

Q 米軍再編に反対し、平和で安全な新北九州空港を望む

A 米軍再編による築城基地使用は町長として反対している

国保税の引き下げと、滞納制裁措置の中止を

Q 低所得で苦しんでいる町民でも払える国保税にするために、一般財源からの繰入額を増額し、国保税の引き下げを。

A 税の引き下げは困難。国保税世帯の3分の1、2、055世帯が滞納という異常な状況をどう打開するのか。また、全国的に、

制裁措置をやめて、保険証を再交付している自治体が増えているが、なぜ苅田町でできないのか。

A 町として、分割の納付等個別に相談を受けていきたいが、資格証明書の発行中止は困難。今の制度をこのまま持続したい。

普通教室への空調設備の設置通学路の安全対策を

Q 小中学校の普通教室への空調設備の設置は、障害児の学習権の保障や子供たちが学習に集中できる環境づくりのために緊急な課題。18年度、障害児のいる片島小、苅田小の2校から設置が必要では。

A 各教室の空調設備は、今後、順次検討したい。

Q スクールバスの運行については防犯上からも速やかな運行が必要。特に、新津中の校区は非常に広く、障害のある子や体調の悪い子、自転車に乗れない子供たちと家族の負担を考えると、早期運行が必要では。

A 子供たちの登下校の安全対策として今後の検討課題。

Q 通学路の安全対策として、県道浄土院川横の交差点改良工事と交通規制、県道今賀横の安全対策の早期実施が必要では。

A 交差点改良は南北の町道拡張が必要。用地交渉を行い実施したい。一ツ橋・県道間の交通規制は、行橋警察署に要請している。

Q 片島小の児童増加対策として、片島・岡崎間の公社所有の遊休地の早期活用と雇用促進住宅への家賃補助の増額が必要では。

A 補助金の増額は厳しい。

乳幼児、児童の安全な居場所づくりは児童館の早期設置で

Q 児童館の早期設置が、幼児の虐待や児童への悲惨な事件が頻繁に発生する中、緊急に必要なではないか。

A 公民館や空き店舗などで、できるところから、早めに取り組みたい。尾倉の総合福祉会館の利用も検討したい。

コミュニティバスの浄土院乗り入れを

Q 浄土院区へのバスの乗り入れは、切り替え場所確保ができれば乗り入れ可能とのこと。区民から土地の提供申し入れがあり、至急調査の一手配を。

A Uターン場所の確保と陸運局の許可が下りれば、乗り入れは可能。

平和で安全な新北九州空港に

Q 「米軍再編」による築城基地の米軍使用は、緊急使用の恒常化で、新北九州空港の安全な運行が危ぶまれるのでは。

A 「米軍再編」による築城基地使用については、町長として反対を表明している。





林 繁実 議員

Q 少子・高齢化や ゴミ問題の対応は

A 地域との 連携づくりを

Q 全国的に展開された平成の市町村大合併は、地方分権の時代が来るといふこととであり、そこで最も重要になるのは首長のリーダーシップである。その人間像について私の考えを申し上げますと、空港や公民館はお金で買えますが、買えない人間の能力を活用し、潜在する能力を目覚めさせる。これが一番大事なリーダー像である。その最大の仕事は高い理想と確固たる信念に基づく決断と実行です。来るべき地方分権を意識したリーダーシップについてどのように考えているか伺いたい。

A 地方自治体のリーダーは長期的な展望をもって、その達成に向かって職員と住民を動かしていくことが必要です。また健康で明るく公平で人間的魅力がなけ

ればならないし、組織の風通しをよくして、建設的な意見が飛び交う職場風土をつくらなければいけないと思う。

Q 大合併の大きな要因となった少子・高齢化は、もはや避けては通れない重要な課題であり、そのために年金、介護問題、業種によっては労働力不足、税金の減少といった問題を抱え込むようになったのが現状だ。日本の総人口は平成19年をピークに減少傾向に変わり、2050年には1億人、老人人口は15倍にと推計されている。このように人口の推移は予測できてもかわらず、諸問題が出てくるのは、国、県、市町村の怠慢と言わざるを得ない。予測できる少子・高齢化をどの様に考え、どのような施策で将来に備えるかを伺いたい。

A 子育てや介護などに地域ぐるみの家族支援、高齢者や障害者が生きがいをもつて安心して暮らせる環境整備、子どもを中心に、学校、家庭、地域の連携づく

り、子ども達がはつらつと自然に親しむ環境整備など、できるものから順次取り組んでいきたいと考えている。

Q 家庭ゴミは分別化することで減量化とリサイクル増進になるが、さらに住民の意識改革を促し、行政はこれを積極的に支援し、有効な手段には迅速に対応していくことが大切と思うがいかがか。

A 簡単にゴミを有料化するとか、監視カメラを設置するとか、簡単なことでは解決できる問題ではなく、住民と一体化して環境問題を考え、リデュース・リユース・リサイクルの3Rを提唱して循環型社会をめざす。

Q 本日質問した内容はどの自治体もが頭をかかえ、解決に至っていない問題であり、生活に根ざした施策が重要だ。





作本 文男 議員

Q 「結果の平等」から「機会の平等」の町政を

A 自分達のごことは、自分達でやることが望ましい

Q 中央集権のもと「豊かな平等」・「結果の平等」が実現した。しかし引き換えに国・地方合わせて770兆円もの借金が出来た。これからは画一された行政サービスは不可能になった。地方分権のもと荻田町政も行政の在り方、町民と行政の役割、負担の見直し等を行い真の住民自治を目指すべきと思うが。

A 町民要求に対し応えるよう努力はするが、できない事はできないと言っていく。

Q 「町民要求と行政の対応」の例として各行政区に公園がある。地域の子ども達や地元の人達の憩いの場である。当然その公園の管理は地元の人達でやっていくべきだ。しかし、現実には町が金を出し地元老人会等にやってもらっている。しかも年3回が5回に増えている。自治の本質に沿って見直すべきだ。

A 地元の苦情、要望だと思いが精査してみる。

Q 先人の力で豊かな税収



に恵まれてはいるが、「受益と負担」の原則を忘れた町政はいずれ破綻する。誰も莫大な借金を子々孫々に残して良いと思っている町民はいないはずだ。

教育改革

Q 34人学級を実施することについて総論賛成、各論反対である。保護者の声を聞くと、「学級崩壊を何とかしてほしい、英語教育や34人学級も良いが、安心して子どもを学校に通わせる事ができるようにしてほしい」との声が圧倒的だと思いが。

A 34人になれば40人の時より一人一人に目が届く教育ができる。

Q 根本的な解決にはならない。問題児については家

庭教育も視野に入れ、幼児教育も含めた総合的な取り組みが必要だ。

A 教育には色々な問題がある。今回はその第一段階だ。

Q 日本立国の原点は教育だ。「米百俵の精神」で総合的な教育改革を望む。

委託契約

Q 昨年6月「荻田汚職」という不幸な事件が起きた。談合事件、収賄事件だ。当事者中野光男は建設会社その他に三友総合商事(有)（燃えないゴミ収集の委託業者）の代表者でもあり昨年8月4日に起訴、本年1月17日有罪判決があったが委託契約を解除されないうえ、事件のもう一人の当事者、沖永春生の子息に代表



者の変更をしているが許されるのか。

A 代表者の変更は9月5日であり、刑の確定の後でないと取消できない。

Q 明らかに委託契約の解除を逃れるために行われた行為であり、道義的に許されない。顧問弁護士とも相談し対処すべきだ。又、指名停止要綱では代表者が起訴された時点で指名停止にすべきであるとするが、何故しないのか。

A 弁護士と相談し報告する。

Q 障害者自立支援法、なまえどおり 障害者は自立できるのか

A 障害福祉計画を作成する



梶原 弘子 議員



障害者自立支援 法について

Q 実態をよく把握し、審査会に障害者や家族などを加えてほしい。重度の人は利用するほど負担が重い。町民税非課税の世帯ではこの制度の利用限度額が2万4、600円、あとは実費

で負担が重い。上限額の引き下げと減免を願う。
A 障害者の実態をみて今後検討する。
Q 障害者の訓練や就労移行支援とあるが障害者受け入れ先企業への働きかけはするのか。
A 行政からは難しいが、一般就労の移行ということでは何らかの事業計画を盛り込みたい。
国民保護法の問題について
Q 武力攻撃事態法という法律が2003年、自、公、民で強硬可決、アメリカが海外で引きおこす戦争に自衛隊を引き込み、その支援活動に罰則つきで国民を動員するという危険な内容。例えば敵が荻田港に上陸した場合、行橋方面の山に逃げてもらいたい、その先はまだ決まっていないなどあいまい、結局国民を守れない法律だと思ふ。
都道府県知事が国民の土地、建物を強制収容でき、

緊急時には医療関係者、土木業者、運送業者など160機関に業務従事命令がだせ罰則で縛られている。荻田町には大型工場、重要港湾、火力発電所、新空港、築城基地の再編問題もあり、国は武力の法整備ではなく外交に力を入れてほしい。
A 今後国民保護計画を策定、協議していく。

町内保育所の 処遇改善費が ゼロになった が処遇は改善 されたのか

Q 社会福祉が担っている施設は本来国や自治体が行う事、それを民間が担い公費運営しているが、足りないからと言って保護者に負担は求められない。保育士やひいてはこどもにしわ寄せがくるが。
A 処遇改善費は16年度で7割、17年度で4割、18年度でゼロ。保育連盟の7園の了解をもらっている。

地区の消防器具 などの充実

Q 消防行政で区ごとにあがる消防器具などの充実を願う。
A 近じか検査。古くなれば交換する。
Q 住宅用火災警報機が18年6月から設置義務化されるが、昨年も焼死者が出た。報知器設置で改善される、1人暮らしの高齢者などに、この報知器を町予算で取り付けられないか。
A 予算の関係などあるので検討課題としたい。

同和行政について

Q 同和事業の足並みをそろえてきた京都郡、合併により1市2町に変わった。県も同和对策を18年度で終了、町としてどれだけ今まで予算執行したのか総括してほしい。
A 昭和44年から始まった。資料はあるが倉庫から調べ出す時間的猶予がほしい。

Q 定住化施策への取り組み強化を

A 都市基盤整備を図り

宅地化を誘導していく

Q 荇田町の人口は平成12

年をピークに減少し、今日では35,000人を切っている。社会状況の変化はあるが住宅施策等がなされなかったのが要因の一つではないのか。

A 住宅施策が不十分であった。教育問題や土地が高いなどの要因が考えられるが原因を検討し対策を行っていく。

Q 与原地地区画整理事業

の方針案の作成を行うとの

ことだが、どのように進めていくのか。

A 25年間何も手をつけていない状況であり、人口増加策のこともあり十分精査したい。実現すれば約100haで9,350人の人口増が期待できる。

Q 目標人口5万人を4万

人に変更したが、5年間で5,000人を増やすのは大変だ。一つの例として城南団地の下には農地が沢山残っているが、政策的な道路を県道から日豊線際まで



武内幸次郎 議員



何本か入れ、日豊線に沿った道路の延長を行えば民間による住宅地としての開発が期待できると思うが考えは。

A 人口増については真摯にとらえ、意見も含め検討していく。

Q 18年度予算の歳入で航空機燃料譲与税が180万円計上されているが北九州市への金額は。

A 確定ではないが3,700万円程度で荇田町の取り分がその5%である。北九州市にはその他ターミナルや格納庫等の税収が考えられるが荇田町はない。

Q 空港関連用地への誘致活動や利用促進への取り組みは。

A 関連用地2haの整備が終了するので一日も早く誘致に向け取り組み。利用促進については航空会社、就航しやすい支援策や利用者にとってメリットのあるポイントカードなど利用促進策を考えている。また、国際チャーター便等を実施し、新たな路線確保などに取り組みたい。

Q 下水道整備の全体的な見直しの結論はいつなのか。

A 3月末に予定している。

Q 公共下水道整備事業が終

了するのはいつになるのか。
A 雨窪から猪熊まで1,067haで平成25年を目標年度と定めているが、再評価の結果平成45年に変更が出されている。
Q 合併浄化槽も含め検討しなければ不公平感が生まれる。

地産地消について

Q 農業振興策として注目されている地産地消ですが、地域で生産された農産物を地域で消費し生産者の顔が見え、消費者のニーズに応えやすいなど、食の安全安心が叫ばれる今日。より良い施策だが取り組み状況は。

A 地産地消の農業活性化手法は食の地方分権ともいわれている。荇田町の農業を再生させる有効な選択でもあり、安全で安心な農産物の提供できるシステムづくりと楽しみのある直売所建設や学校給食への安定供給などの施策の推進を図っていく。

Q 尊厳を保つ介護保険を

A 各種のサービスを用意し 相談に応じる



川上公美子 議員

Q 四月からの改正で国は新たに尊厳の保持をうたっているが、制度の継続のため利用を制限しようとしている。

A 要支援だった人が非該当者になったというケースが出ている。役場に再申請をすれば早期の対応は可能か。

Q 認定に対し県に不服申請はできるのか。

A 認定の通知を受け取った日から60日以内に不服申請ができる。

Q 介護予防に力をいれるのであれば寄附に頼るのでなく、シルバーカーなど町として準備する必要があるのではないか。

A 貸し出しが多いので社会福祉協議会にそろえてもらい貸し出すことを考えてい

Q 今まで非課税世帯から課税世帯になり、国保税や介護保険料も増税となるが、減免制度の見直しを求めめる。

A 慎重に見通しながら動いているところである。

就学援助制度で 教育の 機会均等を

Q 憲法第26条で義務教育は無償である。学校教育法第25条では、経済的理由によって就学困難と認められる児童に対しては、必要な援助を与えなければならぬとある。給食費の未納額は、平成5〜16年で355名、753万6、287円のものほっている。この中で就学援助を必要とする人はいないのか。

A 把握できていない。

Q 現在小中学校の子どもがいる家庭に就学援助制度の案内が配布されているが、基準額や内容を充実できないのか。

A 分かりやすい内容と周知啓発に努めてまいりたい



Q 国は一旦中止した全国学力テストを復活しようとしている。愛知県犬山市では、知識偏重ではなく自然から学ぶ力を人格形成の中心に位置づける事を教育目標として、これに不参加を表明している。どう受け止めるか。

A 知力は生きる力の要素であり、全国一斉学力テストは必要である。

Q 日本の子どもは過度に競争させられ、勉強嫌いになってきている。慎重に対応すべきだと思うが。

A 中心市街地に土地が見当たれば、今後考える。

安心して住める 町づくりを

Q 議会で答弁したことが何年も放置されている。職員の適性な配置を。

A 一人一係ではなく対応できる。

Q 旧マルシヨクが解体され、商店街の空洞化を町民は心配している。空き店舗を活動の場に。又、商店の中心に駐車場の確保など考えていないのか。

A 中心市街地に土地が見当たれば、今後考える。



坂本東二郎 議員

Q 空港開港に伴い悔いの残らない町づくりを

A 陸、海、空、三位一体交通結節点をアピールする

Q 臨空産業団地について計画と現状を比較してどうなのか。

また雇用の効果については。

A 工事進捗率は97・8%であり、2月末現在で9社の企業と契約締結を行い全体割合で24・5%である。

行橋ハローワークの調査によると求人率は昨年同時期より14ポイント向上し、立地済みの3企業も24名の町民が雇用され、引き続き町民雇用を要望していく。

Q 臨空産業団地は順調に推移して評価している。当該地は、故伊塚町長が幾多の反対論、慎重論がある中、荻田町の将来を見据えて踏み切った経緯があり、故町



荻田駅舎東西自由通路

長の思いを具現化するためにも荻田町の産業ゾーンシンボル地域になるよう努力してもらいたい。

Q 臨海工業線を初めとする道路整備の中で荻田磯浜地区あたりは、本来通行線であった所が分断されているが、住民から道路閉鎖に伴う苦情はないのか

A 苦情等も若干きている。道路アクセスの向上、交通体系の整備等、非常に難しい面もあるが、住民と共に

福岡県に要望しながら改善していきたい。

Q 荻田町にとって40年近くかかって開通した待望の道路であり母となる道路である。期待感を持って道路のネーミング等を町民から一般公募を提案したいと思うが。

A なかなか良いアイデアと思う。住民に愛され、親しまれる道になってほしいと思うし少しでも優しさが持てるように今後の課題したい。

Q 荻田駅新駅舎移転時期はいつなのか。

A 荻田駅のオープンはJRとの協議で本年4月22日を予定している。

Q 荻田駅舎新築に伴って住民の関心事は、特急停車問題である。荻田町としてJRに具体的に何回、誰に陳情活動を行ったのか。

A 正式には前町長と2回行った。一回目は平成15年11月頃に企画担当部長に公文書で要請した。二回目は

16年2月頃JRの代表取締役役に陳情した。それ以外でも地元の取り組みの陳情を行っている。

Q 陳情はより頻繁にやったほうが効果があると思う。我々町民サイドも住民運動など、より積極的に取り組み、必要とあらば署名活動等も行い、新しい荻田駅に特急停車を実現していく努力と盛り上げを行うことが大事である。



臨空産業団地の眺望



常廣 直行 議員

企業誘致の現状と課題

- Q** 自動車関連企業の集積を目指しながら、企業誘致が進まない。その対策は。
- A** 県と相談しながら、受け皿づくりを進める。
- Q** 特色ある優遇措置を作ることも必要ではないか。
- A** 条例の見直し、改定を進め優遇制度を次回議会までに考える。
- Q** 産官共同プロジェクトを再開するべきではないか。
- A** 県と相談しながら早期再開に向けて努力する。

Q 継続ある発展を続けるまちづくりのための施策は

A 空港の玄関口にふさわしい優良企業の誘致を進める

急がれる苅田駅再開発事業

- Q** 苅田新駅舎の開業は新空港開港には間に合わない。計画を早められないのか。
- A** 色々な要望もあり、今後出来る限り努力する。
- Q** 工事メドはついたのか。
- A** 工事のメドはついた。
- Q** 約束通り「苅田駅」メドがついたら小波瀬西工大

前駅移転計画を進める」と受け止めて良いか。
A 財政状況を見ながら進める。

県道25号線開通後の課題

Q 県道25号線の開通に伴い、中央分離帯で塞がれ右折が出来なくなったことで近隣企業は数千万円の損害を被った。今後の対策はあるのか。



混雑する日産正門前

コミュニティバスの本格運行を前に

Q コミュニティバスの使命をはっきりさせるため

A 県とも協議を進め、都市計画道路の整備を優先させたい。

Q 苅田小学校の通学路がこの道路を横断することで歩道橋の請願書も出ている。その対応は。

A 設置する方向で考えていく。

Q 県道の周辺環境で、富久、尾倉の引込み踏み切りの廃止要望についての進捗は。

A 鉄道法があつて難しいが今後もJR貨物と調整する。

にも、地域交通ネットワークを作るべきではないか。
A 実証運行を見ながら考える。
Q このままでは将来必ず破産する。採算性も考慮した自立できる事業計画を考えられないか。
A 黒字採算は難しい。課題は沢山あると思う。

公共施設の維持管理

Q 町民のニーズや地域の規模にあった施設に再整備する必要があるのではないか。

A 国の集中改革プラン推進計画の中で検討する。

Q 公共施設の申し込みを携帯やインターネットを使ったシステムに出来ないか。

A 今後検討していく。

Q 集会所整備等の補助金見直しを考えているのか。

A 条例改正は考えていないが補助金見直しは考えている。

Q 馬場小学校学区学童保育の立ち上げに、どんな支援ができるのか。

A 費用と施設は町で。窓口を総合政策課とする。



友田 敬而 議員

Q 新年度の予算方針は

A 手づくりの3つのプランを基本に

Q 町長の所信表明をどのように新年度予算に反映させたのか。

A 私の政策基本である「手づくりの3つのプラン」を通して町民が輝く町にするために現状の把握と計画立案に主眼をおいた。

Q 空港開港に伴う荇田町の対応、取組みが遅いかどうか考えるのか。

A 昨年の町政の混乱で遅れたことは否めないが、少しでも遅れを取り返すべく全庁一丸となって対応していく。

Q 井場川河口埋立開発は荇田町の商業・観光発展の起爆剤である。計画を立案するとなっているがより慎重に、今までの経緯にとらわれず大胆に行っていくべきだ。

A 計画を立案する組織作りが肝要である。産学官民を巻き込み慎重に検討する。

観光振興について

Q 町長は観光振興を訴えているが伝統文化の観光資源化とは松会、山笠を念頭に置いているのか。

A 空港での荇田町のPRにも松会、山笠を展示している。

Q 山笠、松会を観光化する場合に政教分離が問題になるのか。

A 現状としては問題であると考える。



Q 他の文化遺産を観光化している所を見ると行政、主催者、町民が色々な知恵を出しこの問題を解決しているが、荇田町でもそのような取り組みを考えてみないか。

A 今後、祭のあり方、実施の仕方等、課題と受け止め検討していく。

安心安全の町づくり

Q 空港開港、高速道路開通、港湾の発展で国際化する。人、物の往来が多くなるが、防犯体制は大丈夫か。

A 防犯無線、青色パトカーの導入で対応していく。

賑わいの商店街

Q 警察の防犯体制が町の発展に追いついていない面が見られるが対応は。

A 警察、県へより安全な防犯体制確立を要望する。

Q 国の商業政策である「まちづくり三法」が改正されるが、大型店対策はどのように考えるか。

A 中心市街地活性化を中心にまちの商業活性化のブランドデザインを現在描いている。そのデザインを壊すような大型店の出店がある場合は関係課と協議して前向きに対応していきたい。





小山 信美 議員

Q 安心メールシステムの 早期導入を

A 今後十分検討していく

Q 保護者の携帯電話やパソコンの電子メール、ファックスを配信するシステムの導入は。

A 県警のメール配信や学校からの文書で通知しているが、安全を守る事は緊急な課題だと考えているので今後十分検討していきたい。

Q 昨年の不審者情報の件数と内容について。

A 16年度は17件。抱きつき、車内から声をかけた、下半身露出が主な内容だ。

Q 不審者情報の伝達方法は。

A 学校↓教育委員会↓京築教育事務所↓福岡県警。各学校から保護者に文書で報告している。

Q 青色パトカーの概要について。

A 県の非行防止プロジェクト事業で行政と関係団体が非行防止に当たる。青色パトカー一台に一人県警のOBを雇用し、つき16日勤務で全校区内を巡回する。

Q 昼間だけでなく夜間も巡回するよう検討できないか。

A 未然防止が最大の危機管理だと思う。中身の充実については今後真摯に検討していく。

Q CAPプログラムについての取り組みはされたか。

A 実施校は京築管内で1ヶ所。実施校から資料を取り寄せ校長会などを通じ実施に向け検討したい。

Q 護身方法を学び本来もっている力を引き出すプログラムだ。実験的でも検討

する価値があると思うが。

A 教育委員会や学校でも検討したほうがいいと思っている。

防災無線整備の 必要性

Q 福岡コミュニティ無線方式だと1-3以下の予算でできる。このシステムを取り入れることはできないか。

A 本町でも整備がぜひ必要と考えている。直方がモデル地区なので研修等に行きその後決定していく。

介護保険制度の 果たす役割

Q 高齢者のための運動機能改善に機械を取り入れて

やる方向性については。

A パンジープラザや各公民館にあるエルゴメーターや階段状の踏み台を利用した運動を考えている。

AEDの設置と 救命講習の普及 促進を

Q 1分遅れるごとに救命率は10%ずつ下がりが発生から3分以内にAEDが使われた場合、74%が救命に成功すると言われている。AEDの設置場所は。

A 学校、公共施設、スポーツ施設で4月1日から設置され、関係者は3月下旬に消防本部で半日研修を受講する予定。





白石 壽幸 議員

Q安全・安心して暮らせるまちづくりは

A整備計画を立てる

JR小波瀬西工大

前駅周辺の

諸問題について

Q JR小波瀬西工大前駅の移転等問題は、前、伊塚町長は「荻田駅周辺の整備が終了してから取りかかり、なるべく早くJR及び県と協議し、計画等は逐次進めて行きたい」とのことだった。町長が変わったので再度考えを伺う。

A その線ができるだけ守っていきたいと思っっている。駅のバリアフリー化については、今後もJRに陳情してまいりたいと思っている。

Q 九耀橋東側の交差点付近の整備の見通しについて。

A 小波瀬西工大駅前の前から九耀橋手前のカーブの間は歩道がないため歩行者に危険な状態であり、歩道の整備を計画する。

交通安全・防犯

対策について

Q 荻田臨海工業線が開通し交通量の増加と加速走行の車両が多く、危険が予測される。歩道周辺のガードレールや照明灯の整備が必要ではないか。

A 地域の住民の方々と行橋土木事務所に要望してきた。

Q 白石区、二崎区にスクールバスの運行計画等はあるか。

A 子どもの安全のために、両区だけの問題ではなく、ほかの地域にも同様の問題があると思われるので、コミュニティバスの利用も考え早い時期に検討し、結論がでるように努める。

環境問題について

Q ゴミステーションの付近や河川敷にゴミが放置されているが、ゴミのポイ捨て防止対策についての見解を伺う。

A 広報紙などを通じ、マナーアップを呼びかけ、

しく住みよいまちづくりを
目指していく。



▼白石海岸の植樹と清掃をする新津中生徒▲

教育問題について

Q 学校週休二日制の事業評価と今後の対応について。

A 体験を通じて生きる力が育ってきたという評価と、学力の低下と評価がふたつに分かれている。学力低下の面については、各学校で学力向上プランを作成し、指導の充実に努めているが、基本的な生活態度、行動様式が身につけていない面も指摘されており、家庭や地域との連携を深めるよ

う努力していく。

Q 白石海岸や神ノ島の残り少ない海浜を整備し、荻田町の宝として大切にまもり、生涯学習施策の一環として利用することについての考えを伺う。

A 自然を守るうえで、子どもたちの学習体験のうえでも大事な場所だと思う。県への要望や国、県とも協議をしながら考えていく。

Q 町民プールの整備について。

A 老朽化が激しく建て替えに向けて検討しているが結論はでない。



委員会活動

意見書7件

可決された意見書4件については、関係先に送付した。

・公共サービスの安易な民間開放は行わず、充実を求める意見書 **可決**

・さらなる総合的な少子化対策を求める意見書 **可決**
 ・大豆食品に正しい「遺伝子組み換え」表示と、「遺伝子組み換え」大豆混入率の引き下げを求める意見書 **否決**

・憲法第9条（戦争の放棄）の堅持を求める意見書 **可決**
 ・医療制度改革関連法案に反対する意見書 **否決**
 ・米改革、新たな「基本計画」実施にあたってはすべての農家が安心して営農できるように万全な対策を求める意見書 **否決**

・次期定数改善計画の実施と義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書 **可決**

第2回河田町議会

（臨時会3月31日）

補正予算 1件
 条例の制定 1件

慎重審議の結果全議案可決された。

平成18年度一般会計補正予算（第1号）

・教育特区の実施に係る町費負担教職員の人件費など49、596千円の増額補正である。

「未来を拓く子どもを育てる教育の町 荊田」特区に係る荊田町費負担教職員の採用等に関する条例の制定について

・教育特区に係る町費負担教職員の採用にあたっての方法、定数、給料、手当等、支給方法、旅費、勤務時間等の規定に関する条例の制定である。

委員会活動

閉会中の調査のため開かれた委員会は、次のとおりです。
総務常任委員会
 （1月26日）

・ミニ公募債の発行について
 ・コミュニティバス実証運行の経過について

厚生文教常任委員会
 （1月24日）

・介護保険制度改正に伴う説明

・荊田町給食センター視察
 （1月31日）

・総合的な学習の授業参観
 荊田中学校：福祉体験授業
 馬場小学校：英語活動授業



荊田中の福祉体験授業



馬場小の英語活動授業

空港対策特別委員会

（1月23日）

・空港の視察



3月23日

・新北九州空港・町づくり
 ～おもてなしの来客都市
 づくり～「合い言葉は
 一緒にやろう！」講演

入札制度改善対策特別委員会

（2月7日）
 ・宗像市における入札制度
 のあり方について視察

議員執行部 合同課題研修

平成18年3月30日

講師 常磐大学教授

井上 繁

内容 「まちづくり条例」



総務常任委員会 研修視察

平成18年2月8日～9日
沖縄県与那原町、那覇市

●研修内容

人口増加策のための活力のある町づくり（那覇市）と行財政改革におけるIT利用による各申請書の電子化、及び防災情報の電子化（那覇市）について調査。

与那原町

狭小な土地を克服し、地域の活力を取り戻すための沖縄県の事業に対して、隣接する西原町とで事業を展開している。

苅田町においても、企業進出また交通体系の整備が進む中、人口の伸びは見られない。苅田町には海岸線・山間部・田園地域等自然が残されており、人口増加策のためにも与那原町の事業を研修し、潤いのある町づくりに活かしていく。

那覇市

公共施設の予約システムの概要や電子サービス、地域安心安全情報システム実証実験の概要の研修を行な



った。
苅田町でも行財政改革の一つとして、また住民の利便性からも公共施設の情報の一元化やわかりやすい利用方法についての方策の策定が急務であると考えるところから、今回の研修で得たことを基に執行部と論議していくこととした。

厚生文教常任委員会 研修視察

平成18年2月8日～9日
大阪府池田市、吹田市
教育特区（池田市）及び児童館（吹田市）の調査

池田市

苅田町の学校教育における少人数学級の特区導入のための課題研修として、池田市における実情の研修を行なった。

平成16年3月教育特区の認定を受け、英語教育・科学情報教育を導入、教員の市費での採用による、少人数学級実施を行なっている。苅田町での今後の教育を



論議する場合の貴重な参考となった。

吹田市

児童館の管理形態や利用状況について、研修を行なった。

吹田市（人口35万人）では、児童館を市内10ヶ所所有しており、一館当り6名の嘱託職員で運営している。

産業建設常任委員会 研修視察

平成18年2月9日～10日
鹿児島県名瀬市

苅田町の陸・海・空の交通拠点都市づくりの一つである、港の整備について、観光スポットの要素をかもし出すような整備を議論するべく、名瀬市における港湾整備でソフト面とハード面の連携の取れた事業推進の研修を実施した。

名瀬市の港を核とした産業振興及び観光振興について。名瀬市での港湾の整備状況は、臨海道路、耐震強化岸壁（160m）、緑地2.8haや都市機能用地が設けられており、港を核とした観光振興の活性化を重点的に実



施している。
港の景観についても配慮され、「きれいな港」のイメージが強い。
苅田町においても今後の港の整備には、一つの観光的イメージをかもし出すような事業の推進が必要である。

カメラで見歩き



空港開港式



港橋開通



開通記念マラソン大会



新幹線開通



島田バイパス



島田臨里のユーフォー





卒業おめでとう

※写真については提供のあった学校のみ掲載しました。



片霧小卒業式



白川小卒業式



南区小卒業式



片霧小入学式

入学おめでとう



片田小入学式



白川小入学式



南区小卒業式



新津中入学式



ふれあいマラソン大会

がんばれ地域のサポーター
(第11回)

親しみやすい神楽
神話の世界を再現

KANDA天神かぐら同好会

会長 竹田俊英



創作神楽で地域を盛り上げていきたいと、片島青年団OBを中心に、平成9年に同好会を結成した。京築を中心とした神楽の里づくり構想推進の一躍を担うことができればと新たな発想のもとに、大人から子供まで親しみやすい神楽の創造を目指し活動している。

会員は現在、高校生、大学生を含む18名で構成している。

神楽を始めたきっかけは昭和54年、青年団主催の神幸祭演芸会でお土産で買った神楽面やはぎれで作った衣装などを身に纏い鬼退治を披露、会場割れぬばかりの喝采に団員大感激。これを機に片島神楽は、演芸会はもちろん敬老の日のアトラクションや老人ホーム慰問等々多くの行事に参加してきたが、回を重ねるにつれ鬼退治もマンネリ化し何かないかと模索していた頃、団の慰安旅行で島根県出雲に行った時、宿泊ホテルのアトラクションで石見神楽『大蛇』を見て、その勇壮さに団員一同くぎ付け……。

「これだ!」これしかない、と、数日後、会議を開き昭和58年の演芸会は大蛇退治で勝負……と、撮影してきた写真を見ながら大蛇制作に1ヶ月かかった。大蛇のときは思った以上のできばえでマスコミにも取り上げられ演芸会本番の当日を迎えた。公民館に入りきれない程の観客に団員も興奮するなか大盛況を収めることができた。

その後、苺田ほたる祭り、洋上敬老会アトラクション、苺田夜市、老人ホーム慰問、村おこし祭りなど沢山の行事が開催されるようになり、神楽フェスティバルの出演依頼もあつたが、当初は断っていた。手作りの大蛇も古くなり思案していた頃、ふるさとづくり推進事業の支援を受け、島根県より本物の大蛇を購入し、団体名も片島神楽から平成9年に地元菅原神社の天神様の名前を拝借して「天



神かぐら同好会」と改名し神楽講としてスタートし、築城町で開催された第2回神楽フェスティバルの苺田代表として出場した。



創作神楽と言うことで会場は、天神かぐらを見ようと沢山の人がステージ近くまで集って来たが演芸会で鍛えたくそ度胸で、アドリブなども飛び出し大盛況だった。その後、大蛇も一匹づつ増やし現在5匹となり衣装等も新調し今では、県内外からも出演依頼が来るようにまでなった。

神楽を次代に伝える後継者のことも考え、一昨年から片島小学校3、4年生を対象にふるさと学習の一環として神楽を教えている。今後、演目も増やし郷土芸能の一つとして、ふさわしい神楽講になれる様、精進を重ね新たな文化の創造に挑戦していきたい。

あとがき

新空港開港に関連してさまざまな式典や見学会などに参加した、どれも先人の方達の思いが詰まったもので20年から30年前の計画の完成を見させてもらったことになる。京都峠のトンネル貫通には50年の歳月が経過した。

私達の役目は先人のみなさんの思いをつなげるとともに、今を生きる人達にどう生かしていくのかが問われ、また未来に渡す役割を負っていると強く思った。

梶原弘子

議会広報特別委員会

- 委員長 光永信雄
- 副委員長 井上修
- 委員 梶原弘子
- 委員 作本文男
- 委員 武内幸次郎
- 委員 常廣直行
- 委員 小山信美
- 委員 友田敬而